

国見町指定無形民俗文化財

# 鹿島神社例大祭

guidebook ● ガイドブック

# 鹿島神社例大祭

10月 **前々日** 木 前夜祭

前夜祭 19:00  
終了後町内を山車運行

10月 **前日** 金 例大祭

例大祭 11:00  
宮詰め 19:00

10月 **第4日** 土 神幸祭・神輿渡御

神幸祭 8:00  
神輿渡御 9:00 発御  
19:30 もみ合い開始  
(一心堂前～鹿島神社)  
22:00 還御

## 若連パフォーマンス

- ・ 14:00 ～ 四町若連によるお囃子披露
- ・ 19:00 ～ 山車パフォーマンス





## 『伝える』 この地に生きる人々の想い～鹿島神社例大祭～

鹿島神社例大祭は、旧奥州街道藤田宿を中心に毎年10月の第4土曜日とその前日の2日間にわたり行われる例大祭と前夜祭が執り行われる国見町の代表的な秋祭りです。

例大祭のクライマックスを迎える最終日には、昼は神輿と山車4台がお囃子とともに町内を練り歩き、御旅所では稚児舞や剣の舞などの神事が行われます。夜は、昼の雰囲気とは一転、山車と山車が神輿を挟んでぶつかる「もみ合い」が還御まで練り広げられ、沿道は多くの人々でにぎわいます。伝統的な絆纏を身にまとい神輿を担ぐ者たち、町内四若連の気迫あふれる姿をぜひご覧ください。

## 神幸祭『神の降臨する日』（例大祭3日目）



午後7時半、例大祭一番の見どころである「もみ合い」の始まりである。  
鹿島神社から南へ伸びる旧藤田宿の街道には、たくさんの露店が立ち並び、詰めかけた人々が通りを埋め尽くす。  
山車が神輿を挟みぶつかり合う。  
若連たちの熱気が、山車と神輿がぶつかり合う響きが、詰めかけた人々の心を熱くする。

もみ合い

# かんぎよ 還御へ

拍子木の乾いた音が街道に響き渡る。その音に呼応し、四町の山車が入れ替わる。再び山車が神輿を挟みぶつかり合う。幾度となくぶつかり合う。神輿は、ぶつかり合う山車とともに鹿島神社へ、ゆっくりと街道を北上していく。午後 10 時、四町の山車とともに神輿は社殿下へ。





## 祈る

若連たちは、想いを一つにし  
祭りの安全を祈願する。



## はつぎよ 発御

猿田彦に続き本殿へ向かう神職。  
神幸祭が終わりいよいよ発御へ。

## 連なる

各町自慢の山車が町を練り歩く。  
旧街道の宿場町は活気に満ち溢れる。



## 氏子

軒先に提灯を飾り、  
神輿を迎え祈りを捧げる。



## とぎよ 渡御

末社である御霊神社。  
稲刈りを終え一年の穂りに感謝する氏子。  
参拝しようと神輿が来るのを待ちわびる。



## 伝える

親から子へ、子から孫へ。  
未来へつなぐ。



## 響き

力強く軽快なリズムを  
刻むお囃子。



## 舞う

楽人の奏でる音色とともに華麗に舞  
う姿は、祭に華を添える。

## 鹿島神社例大祭

由来：鹿島神社例大祭のはじまりについては明らかではありませんが、弘治4年（1558）『梁川八幡宮祭礼規式』には「御長杵ノ祭り」との記述がみられ、中世に長杵や旗杵の風流行列が出る祭礼が執り行われていたことがわかります。

現在のように、例大祭で神輿渡御や山車の運行、御旅所での神事が行われるようになった起源については不明ですが、昭和6年（1931年）の本町組財産目録の記述によれば、大正15年（1926）には山車を所有していたことがわかります。子どもから大人まで大勢の人が山車を囲み、地域に祭礼が根ざしていたことを物語っています。

また、昭和初期に鹿島神社の参道となる旧藤田宿の街道沿いには、多くの屋台が軒を連ね、大勢の人が集まり、華やかな例大祭の様子がうかがえます。

以前10月19日、20日に行われていた祭礼は、参拝者や若連などの氏子が参加しやすいように日程の調整が行われ、平成16年（2004）から神輿渡御を10月の第4土曜日に変更しました。



昭和6年錦町組の山車



昭和初期 社元組の山車



本町組財産目録（昭和6年）



昭和50年頃の例大祭



昭和初期の例大祭の様子

### 広域な神輿渡御

神輿と4台の山車、稚児行列がともに巡行する神輿渡御では、鹿島神社を発御すると、鹿島神社の末社、境外社である、御霊神社、<sup>おみたま</sup>琴平神社、各御旅所等を巡ります。（両神社の祭礼は、鹿島神社例大祭と同日に行われます）

### 最大の見どころ「もみ合い」

鹿島神社例大祭の最大の見どころは「もみ合い」。

午後7時半になると、鹿島神社から旧藤田宿の街道には、たくさんの露店と見物の氏子で大変なにぎわいを見せ、この熱気の中で、各町の山車が神輿を挟み、山車をぶつけながら神輿を神社まで送ってゆく「もみ合い」が始まります。旧藤田宿町頭から鹿島神社までの約1kmを各若連の山車長の拍子木の合図により、山車を入れ替えながら幾度となく神輿にぶつくと、沿道からは歓声があがります。



# 鹿島神社 (御祭神：建御雷之男神)

たけみかつちをのかみ

鹿島神社の起源は、鹿島神社記によると、「奈良時代にあづちちんじゆしゅうぐんおののあそんあがまひと按察使兼鎮守將軍大野朝臣東人が、蝦夷平定のために東征のおり、常陸国より守護神として鹿島明神を勧請して当地に安置した」とあり、8世紀頃に藤田字古鹿島の地（現在の社殿から300mほど北）に創建されたと伝わります。また、同縁起には源頼朝が文治5年（1189）の阿津賀志山の合戦の際に藤田宿で戦勝祈願を行ったとの伝えもあります。その後、焼失（永禄年間1558～1570）・再建（慶長年間1596～1615）を経て、享保10年（1725）に現在の地に遷座し、医薬神社（江戸時代には「明けの薬師」）とともに祀られました。

明治14年（1881）には、社殿とともに旧奥州街道に面する石垣の再構築も含めた大規模な改修が行われ、鹿島・医薬の両祭神をまつる拝殿・幣殿・本殿が再建されました。

拝殿は、桁行5間、梁行2間の平入で瓦葺の入母屋造屋根を持ちます。幣殿は、切妻造の妻入り、本殿は銅板葺の神明造で昭和45年（1970）に改築されました。



鹿島神社境内



鹿島神社社殿



御霊神社

藤田字滑沢一に所在し、現在は鹿島神社の末社であり、滑沢集落の鎮守として信仰されている。寛永元年（1624）に勧請され、切妻造の拝殿と本殿からなる社殿を持つ。



琴平神社（金毘羅神社）

藤田字鶉町三に所在し、安政4年（1857）に勧請され、切妻造の拝殿と本殿からなる社殿を持つ。現在は鹿島神社の境外社である。

## この地に暮らす人々の願い～祭礼を支える人々～

祭礼は、鹿島神社神職の他、駅前・錦町・大町北・大町南・本町<sup>もとまち</sup>・宮町南・宮町北・藤田宮前・宮東・町東・藤田光陽・鶉町の12町内会を中心とする氏子及び総代、山車を運行する4つの若連（社元<sup>しゃもと</sup>・本町・大町・錦町<sup>みこしとぎよ</sup>）、神輿渡御を行う白張<sup>しらはり</sup>（藤田鹿島会）により執り行われます。

### 国見伝統文化保存会

鹿島神社例大祭及び若連の運営は主に篤志や寄付・氏子による負担等によって運営されていますが、当町においても、人口減少、少子高齢化などにより、祭礼の運営・維持が年々厳しい状況となっています。

このため、若連と関係各町内会が相互に連携し、地域の伝統・文化・行事等を子々孫々へ継承するため、平成25年12月若連4団体と8町内会にて「国見伝統文化保存会」が設立されました。

その後平成26年10月、国見伝統文化保存会が中心となり、「鹿島神社例大祭」を国見町の無形民俗文化財に指定するよう申請がされ、同年12月24日に指定されました。

現在では、12町内会、4若連、神社の関連3団体にて「国見伝統文化保存会」を運営しております。

### 白張（藤田鹿島会）

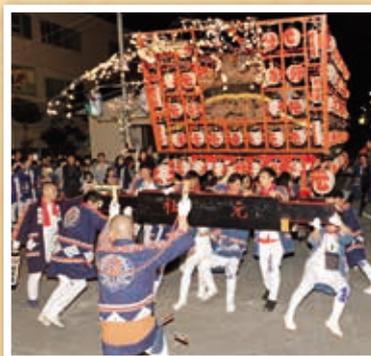
鹿島神社例大祭の神輿渡御を担う白張は「藤田鹿島会」です。若連経験者で構成されており、背中に「鹿島会」の大きな字を背負い、威勢よい掛け声とともに1t近い神輿を担ぎます。歴史と伝統ある神輿は、「もみ合い」での衝撃にも耐え、大切に継承されてきました。藤田鹿島会では「若い人たちにってもらい、伝統行事を次世代につなげたい」と意気込んでいます。



# 社元組



私たちの若連「社元組」は、名前のとおり、「神社の元」にある若連で、宮町北、藤田宮前、宮町南の一部の町内会で構成されています。山車は、他の3町と違い、朱の柱が特徴であり、伝来の彫物を前後にはめ込み、丸提灯と合わせて勇壮かつ荘厳な趣があります。若連は、各町内会を主体として20代から40代まで、さらにその子どもたちも加わり、総勢約70名で運営されています。春には若連一同で廃品回収を行い、その収益で夏に鹿島神社境内で盆踊りを開催し、地域と密着した活動もしています。袴纏は伝統の藍染めの長袴纏で、社元独自の白のダボと股引が、藍染めの袴纏と相まって、美しいコントラストを醸し出しています。



# 本町組



戦前、本町若連は、本町の三班、四班で構成され、「三四組」とも呼ばれていました。三班、四班は、商店街の中心地域で、鹿島神社の祭礼を盛り上げるために、商店主が携わっていたことがうかがえます。

本町若連の魅力は二つあります。

一つ目の魅力は、山車です。現在の山車は、3代目で、重厚で美しい白木造りの山車となっています。特に車輪の大きさは、四若連の山車で一番大きく、車輪に「藤田」の「田」をあしらった金文字は山車の美しさを一層引き立てています。

二つ目の魅力は、お囃子です。親、子ども、孫へと代々受け継がれてきたお囃子は、今も昔も変わらない本町若連の心意気を伝え、若連の掛け声とともに、秋の国見の夜空に響き渡ります。



# 大町組



旧奥州街道藤田宿の町頭にあたる大町地区。私たちの若連は、大町北・大町南町内会で構成されています。子どもから大人まで総勢90名で運営し、老いも若きも一緒になって祭を支えています。大町組若連が運行する山車は大正時代に製作されたものです。もみ合いで破損しながらも修繕を重ね約100年間大切に継承されてきました。華やかな白色の提灯は屋根を囲むよう飾られ、その提灯には若連メンバーの名前が記されています。伝統の中に若連全員の思いを込めた山車が町内を勇壮に練り歩きます。



# 錦町組



私たちの「錦町若連」は、駅前町内会と錦町町内会で構成されています。錦町若連は子どもから大人まで総勢70名で運営されており、親子、兄弟が一緒になって参加している若連でもあります。

駅前を中心とした若連であり鹿島神社例大祭のメインとなる「もみ合い」が唯一地元で行われない若連でもあります。

しかし、特徴としては、駅前から3町が集まる藤田商店街までロング絆をなびかせながら、他の3町にない「錦町若連歌」を歌い坂を下っていく姿は、武士が戦に出陣する姿にも見えます。

また、山車の特徴としては二本松の提灯まつりをモデルに作られた大きな車輪が目を引き山車の高さに圧倒されます。



## □ 錦町太鼓保存会

平成23年には地域に伝わる正統的な叩き方を伝承・保存する団体として「錦町太鼓保存会」を結成しました。活動としては、毎年、商工会主催の盆踊りや老人ホームでの夏祭り、高速道路国見サービスエリアでのイベントの太鼓披露など町民をはじめ町外の方にも広く伝統のある太鼓演奏を楽しんでもらっています。

平成23年3月に東日本大震災及び東京電力発電所の事故により、多くの方が先の見えない状況となりました。私たちは、太鼓演奏で町民の方の「笑顔」を取り戻すためできる限りの要望に応え太鼓披露を行ってきました。

# 鹿島神社例大祭の神輿・山車の運行ルート（概略）



### アクセス

#### JR をご利用の場合

- 東京から・・・東北新幹線福島駅（乗換）東北本線藤田駅まで2時間以内
- 仙台から・・・東北本線「仙台駅」から「藤田駅」まで1時間5分
- 福島から・・・東北本線「福島駅」から「藤田駅」まで17分

#### お車をご利用の場合

- 東京から・・・東北自動車道国見I.C.まで2時間45分（280km）
- 仙台から・・・東北自動車道国見I.C.まで50分（60km）
- 福島から・・・福島駅より車で30分（18km）



KUNIMI  
TOWN  
MAP



平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産を活かした地域活性化事業)  
鹿島神社例大祭普及啓発冊子

編集 国見町歴史まちづくりフォーラム  
福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二1番7  
(024-585-2967)